あの素晴しい県立広島大学をもう一度

住居　広士

県立広島大学大学院保健福祉学専攻・特任教授

抄　録

あの素晴しい県立広島大学での思い出から大学教育研究の活動と参加をもう一度振り返った。原爆症を患った母親の影響を受けて，医学部に進学し，整形外科医として臨床医学と基礎研究に従事した。30 歳を過ぎて臨床医学と基礎医学の環境を失って，介護福祉学に出会う。医学から介護福祉学への転身は，人生の転機となった。1995 年に地元三原市の広島県立保健福祉短期大学に赴任した。その後，県立広島大学保健福祉学部を経て，2022 年に定年退職した。

介護福祉学を学ぶ場が世界に皆無であり，仲間と研究会や学会を立ち上げて，介護福祉学の探求に努めた。2000 年度の介護保険制度の開始により，介護福祉学が社会に認知された。介護モデルを提唱し，介護サービスの標準化と専門性を探求した。日本学術会議の連携会員に 2005 年から推挙されて，第 25 期高齢者の健康分科会の委員長として，介護福祉学を探求した。

あの素晴らしい県立広島大学は，保健福祉学の研究・教育の拠点として，日本初に統合した広島県の保健福祉の発展に貢献した。県立広島大学を学術の中心として，介護福祉学の研究・教育に尽力した。医学部から介護福祉学への転身から，介護が必要な人々の尊厳のある生活を支援する介護モデルを提唱し，介護サービスの標準化と専門性を探求した。介護福祉学の研究・教育にかけた成果を，2040 年には日本史上で最大の高齢者人口を迎える令和の時代の日本にエールを託した。

キーワード：県立広島大学，保健福祉学，介護福祉学，臨床医学，基礎医学，介護モデル

1　緒言

人間は常に時と共に変化をして，いつのまにか終わりが訪れます。だからこそ人生に素晴しさと生きがいを感じます。あの素晴しい県立広島大学を私の思い出と共にもう一度振り返りましょう。県立広島大学の思い出は，星の数ほどありますが，限りある人生のなかで，あの素晴しい県立広島大学に出会う機会は，人と出会い知り合うことよりも困難かもしれません。私は2022 年 3 月 31 日で県立広島大学の定年退職を迎えて，1995 年 4 月 1 日から開学した県立広島大学保健福祉短期大学に赴任してから，約 27 年間もお世話になりました。あの素晴しい県立広島大学とは何かを，もう一度，明るく，軽く，楽しく探求しましょう。

あの素晴しい県立広島大学にて，いろんな自由な教育研究の時間を過ごさせていただきました。その教育研究の成果を，あの素晴しい県立広島大学から，令和の時代の世代にエールを託したいと思います。

2　県立広島大学三原キャンパスの地元の三原市に生まれて

1945 年 8 月 6 日に広島原子爆弾が炸裂して約 10 年後の 1956 年 4 月 25 日に，私は原爆症を患った母親と竹原市の父親の住居智から，原爆二世として広島県三原市に生まれました。小さい子供の頃から，私の身体内から原爆症がいつ炸裂するのかと非常に危惧した毎日を送っていました。

戦後の昭和時代の流れと共に，両親が 1954 年に開業した三原市円一町の「あけぼの」ダンスホールは，1973 年に閉店に追い込まれました。人生は，時代と共に変化していきます。変化することは必然に訪れるのです。逆に変わるからこそ，変化することで，あの素晴しい出会いがもう一度よみがえるのでしょう。令和の時代の世代には，あの素晴しい県立広島大学にもう一度巡り会える日が来るようにエールを託します。

私の母親である住居尚子の前夫である住居忍は，広島市水主町に位置した旧広島県庁農務課に，広島原子爆弾が炸裂した 1945 年 8 月 6 日に勤めていました。広島県庁は，爆心地から約 850 m と至近距離で，一瞬のうちに絶滅した悲劇に巻き込まれました。私の母親は，その直後から広島市内で前夫を捜して徘徊をして放射能を含んだ黒い雨に濡れて脱毛して，戦後には満身創痍の原爆症を患いました。

毎年 8 月 6 日になると，原爆ドームと平和記念公園に母親と一緒にお参りしていたのを思い出します。広島市内では，一瞬のうちに多くの学徒動員された若い学生が原爆死しました。誰の身よりもわからない無縁仏の遺骨が散乱して，広島平和記念公園内の原爆供養塔に安置されました。

私の母住居尚子は，65 歳から総計約 827 冊に及ぶ膨大な小説を読書した要約の記録を「思い出の小説」のノートに残していました。満身創痍の母が，子宮体癌で生命の終末を迎えた 1997 年 4 月 25 日に，『思い出の小説―もう一度読みたい最高の作品』を刊行して供養しました [1]。

3　医学部医学科に生命をかけて進学と奮闘

母親の満身創痍の姿を見ながら，自分の人生を生命にかけたいと，医学部の受験に生命をかけました。県立広島大学三原キャンパスの地元にある広島県立三原高校から 1976 年 4 月 1 日に鳥取大学医学部医学進学課程に第一歩を踏み出しました。鳥取大学医学部医学科に進学して，生命にかけるつもりで入学した大学で出会ったのがラグビーで，青春をラグビーで突っ走りました。満身創痍になりながら，青春を謳歌しました。

ラグビー以外に学業では，医学部の一年生のときに新見嘉兵衛著『神経解剖学（朝倉書店 1978 年 6 月）』の専門学術書に 1977 年 6 月 16 日に出会いました [2]。神経解剖学に出会って，生命をかけて勉学をしました。神経解剖学に出会って約 15 年経過して，新見嘉兵衛学長の岡山県立短期大学に赴任することになりました。一番最初に，憧れた新見嘉兵衛学長に自記筆のサインを頂きました。「鬼手仏心」と，臨床医学の手術は命がけでするけれども，心は仏である必要があると訓示されました。大学最終学年時に出会ってから 7 年越しに婚約して妻の伊都子と，松江城に初デートしました。松江城の入口で写真を撮りました。誰しも今は入口で一緒ですけども，やがては必ず誰もが出口は異なると強く感じました（図 1）。

図 1　鳥取大学医学部医学進学課程に入学して
ラクビーと学問から妻との出会い

4　整形外科教室の出会いから臨床医学と基礎医学

青春をラグビー部で突っ走っていた鳥取大学医学部から，満身創痍のラグビーを生かせる中国四国地方で最も伝統ある岡山大学医学部整形外科医局に 1982（昭和 57）年に入局しました。昭和の時代ですから，新入局生にとり医学部は白い巨塔でした。毎日がラグビーの試合のような壮絶な厳しい医局でした。その中にいる医局員は,『鬼滅の刃』の柱のような先生でした。たくましい鬼手仏心の先生の中で，臨床ワンチームになって整形外科と格闘しました。

臨床医学 2 年目からは岡山大学医学部大学院博士課程の大学院生として，1983 年度に田邊剛造教授は私に基礎医学の癌源生化学研究所に出向を拝命しました。基礎医学を一生懸命に，生命をかけて研究をしました。基礎医学ではオンリーワンを探求しなければならない。一方では臨床医学はワンチームであり，この隔絶は想像に絶する辛さでした。

私は大学院を 1987 年 3 月に大学院博士課程を修了して，山口県下松市の日立病院に赴任しました。整形外科医にとり手術室でもある基礎医学の研究環境を失うことになり，その時に岡山大学整形外科井上一助教授が，私に何かできる研究を探求するために，毎月 2 回山口県の日立病院から岡山大学医学部整形外科医局に招聘を賜りました。

あてもない基礎研究の探求を続けて出会ったのが，関節軟骨を急速凍結置換固定による電子顕微鏡でした。軟骨細胞を瞬時にマイナス約 180 度の液体窒素で，凍結置換した表層から軟骨細胞の生の形態を電子顕微鏡で捕らえました。研究手技は，広島大学歯学部解剖学教室の明坂年隆助教授に修行に参りました。井上一先生は，長年にわたり関節軟骨の表層を走査型電子顕微鏡で探求されました。試行錯誤を何度も繰り返して，初めて岡山中央病院の電子顕微鏡で，急速凍結固定法により軟骨細胞を捉えました。その研究成果を，藤井克行・井上一編著『骨と軟骨のバイオロジー』（金原出版，2002 年 3 月）に刊行されました [3]。井上一先生が教授にご就任された直後の 1987 年 6 月に岡山大学整形外科教室に医局員として第一号の招聘を賜りました（図 2）。

5　医学部から保健福祉と介護福祉の出会い

井上一教授が岡山大学整形外科教室を構築されて 2 年後の 1992 年 4 月に，私は整形外科教室の臨床医学よりも教育研究を探求するために，岡山県立短期大学（1992 年 4 月助教授）に赴任を賜りました。井上一教授からは医学部を修了して，基礎研究を探求するように訓示を賜りました。その後の教育研究にて，岡山県立大学（1993 年 4 月），広島県立保健福祉短期大学（1995 年 4 月），広島県立保健福祉大学（2000 年 4 月教授），県立広島大学（2005 年 4 月）に赴任して，県立広島大学大学院博士課程（2022 年 4 月特任教授）に至る教育研究課程に繋がりました。井上一名誉教授が 2023 年 3 月 26 日にご逝去の訃報を拝受しまして哀悼の誠を捧げてご冥福をお祈り申し上げます。

私も 30 歳を超えてて，臨床医学と基礎医学の環境を失うことになり，タンポポの綿毛のように，舞い舞いしました。何かできることはないのかと，あてもない探求を続けているうちに出会ったのが介護です。介護は，中国にもない日本から生まれた用語です。介護の用語が誕生したのは，明治時代の戦争のときに，戦争で障害を持った傷痍軍人に対して，恩給の中で介護を提供すると用語が残っていました。

日本に，介護という法律用語が生まれた起点になったのが，1987 年の社会福祉士法及び介護福祉士法の成立でした。偶然に，私が山口県下松市の日立病院に

図 2　岡山大整形外科に入局して臨床医学から，大学院博士後期課程にて癌源生化学研究所で基礎医学の探求

図 3　1987 年社会福祉士法及び介護福祉士法から国家資格の社会福祉士と介護福祉士の取得

いるときに，NHK の夕方の放送で 1987 年の法律の成立に出会いました。医療の限界を超えるために，私にも何かできる介護福祉士に生命をかけることを決意しました。その直後に介護福祉士の国家試験を受験をする願書を取り寄せました。残念ながら介護福祉士の国家試験には，医師には受験資格がありませんでした。

京都の佛教大学にスクーリングに 1993 年 4 月から 2 年間通って社会福祉士受験資格を取り，1995 年に第 7 回社会福祉士国家試験に合格しました。佛教大学の当時は，全国でもケア関連職種の 4 年生の学士養成大学は少なった。全国から，短期大学や専門学校の卒業生のケア専門職が来学して，一生懸命勉強して学士を取って，次のチャレンジをしている姿に感動しました。その後に NHK 学園のスクーリングに 1996 年 4 月から 2 年間通って介護福祉士の受験資格を取得して，1998 年に第 10 回介護福祉士国家試験に合格しました（図 3）。

6　介護福祉学の研究会と学会の出会い

介護福祉学を勉強できる現場が日本全国に皆無であり，何とか勉強できる現場をつくりたいと念願しました。岡山県介護福祉研究会を 1992 年 11 月 14 日に岡山県立短期大学で創設して，私は『介護福祉研究（ISSN 0919-2492）』の研究雑誌を 1993 年 4 月 1 日に創刊しました [4]。全国学会である日本介護福祉学会を理事として 1994 年 10 月 23 日に日本女子大学で立ち上げて，私は『介護福祉学（ISSN 1340-8178）』の学会雑誌を創刊しました [5]。介護の社会化が必要であると訴えました。

その頃に，私の地元である三原市内には，半世紀ぶりに広島県が短期大学を新設する話も聞きました。1992 年 4 月 1 日に広島県が保健と福祉の統合を全国で初めて創設しました。他の都道府県では保健と福祉の主導権の奪い合いの大騒ぎの状況となりました。戦後 50 年をかけた措置制度の保健と福祉が，初めて都道府県として統合した広島県は，とても素晴しいと思いました。1995 年に広島県立保健福祉短期大学が三原市に開学しました。三原市の地元に短期大学が開学するだけでなく，保健と福祉を統合した最先端を行く短期大学を広島県が創設しました。保健福祉に生命をかけたいと思っていた私に，広島県が私を招聘しました。開学した 1 年目に初代学長である坪倉篤雄に監修を賜り，住居広士編著『保健福祉総合研究ー 21 世紀を展望した保健福祉システムに向けてー』を，広島県立保健福祉短期大学教職員を中心に執筆を賜り，1996 年 3 月に第一法規から重点研究事業として刊行しました [6]。

表 1　日本保健福祉学会『保健福祉学：当事者主体のシステム科学の構築と実践』（北大路書房，2015 年 3 月）から保健福祉学のあゆみ [7]

保健福祉学のあゆみ

1987（昭和62）年	日本保健福祉学会設立　**社会福祉士法及び介護福祉士法　(1987年)**
1989（平成元）年	厚労省老人保健福祉部設立（現厚生労働省老健局） ゴールドプラン（高齢者保健福祉推進十か年戦略）策定
1993（平成５）年	老人保健福祉計画策定（自治体）　**広島県福祉保健部 (1993年) 全国初統合** 障害者基本法制定 保健福祉学科設立　**岡山県立大学(1993年)**
1994（平成６）年	新ゴールドプラン（新・高齢者保健福祉推進十か年戦略）策定 エンゼルプラン策定　**広島県保健福祉短期大学(1995) 三原市**
1995（平成７）年	精神保健法が精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）に改題
1996（平成８）年	厚労省障害保健福祉部設立（現厚生労働省）
1997（平成９）年	大学院保健福祉学研究科設立　**岡山県立大学大学院(1997年)** 介護保険法制定
1999（平成11）年	新エンゼルプラン策定
2000（平成12）年	介護保険施行　**広島県立保健福祉大学(2000年)**
2001（平成13）年	健やか親子21開始
2003（平成15）年	少子化社会対策基本法施行 次世代育成支援対策推進法施行
2005（平成17）年	改正介護保険法施行　**県立広島大学・大学院 (2005年)**
2006（平成18）年	障害者自立支援法施行
2010（平成22）年	少子化社会対策基本法に基づく大綱（子ども・子育てビジョン）策定
2012（平成24）年	改正介護保険法施行（第２回）
2013（平成25）年	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）施行

介護が必要な高齢者は，保健福祉の措置制度によって，老人ホーム等に措置入所していました。1997 年 12 月 9 日に介護を社会化する介護保険法が成立して，2000 年に契約制度の介護保険制度が開始されました（表 1）。同時に地元の広島県立短期大学は，4 年制の広島県立保健福祉大学に変貌しました。

7　広島県立保健福祉大学でリハビリテーション介護との出会い

広島県立保健福祉短期大学理学療法学科に 1995 年度から初赴任して，私は何をすべきなのか，私にできることは何なのか，自立生活を目指せるような介護を構築したい。それには，リハビリテーション介護が必要である提唱しました。一橋出版から,『リハビリテーション介護とは何か（1997 年 2 月）』[8]，『理論と実践リハビリテーション介護（1997 年 2 月）』[9]，『見てわかるリハビリテーション介護技術（2001 年 4 月）』[10] を出版しました。科学的介護による 3 次元動作解析を理学療法学科で出会って，介護福祉学を科学的に探求することができました。2005 年には介護保険法改正により，介護予防というリハビリテーション介護の介護サービスが介護保険制度に導入されました。大きな介護福祉の流れの中に，あの素晴しい広島県立保健福祉大学が再編統合により開学しました。第 16 回日本介護福祉学会大会を，大会長として県立広島大学三原キャンパスで 2006 年 9 月 24 日に開催しました。

8　ミシガン大学老年医学センターに留学とゴール

私はミシガン大学老年医学センターに，文部省在外研究員として 1998 年 6 月に広島県立保健福祉短期大学から留学しました。1995 年にミシガン大学老年医学センター長のジェフリー・ホルター（Jeffrey Halter）教授に，神戸市で留学に行きたいと伝えました。ホルター教授は，君のゴールは？（What's your goal?），もう一度，留学に行きたいと言ったら，留学はスタートであってゴールではない。スタートの留学がゴールなら来るなと言われました。

人生でとても大事なのは，何をするかの人生の目標となるゴールなのです。1998 年に慶応大学にて，私はミシガン大学老年医学センター長のホルター教授に再会しました。日本は社会保障の基礎構造改革の時代であり，アメリカのマネジドケアの基礎構造改革を学びたいと留学の目標であるゴールを伝えて，留学が認可されました。

日本で想像していた以上に厳しいアメリカ社会保障の光と陰に出会いしました。多くのご支援でアメリカに留学して，アメリカから帰国後に,『アメリカ社会保障の光と陰―マネジドケアから介護まで』（大学教育出版，2000 年 1 月）を編訳しました[11]。留学時にアメリカ合衆国にてアジア系アメリカ人の光と陰を体験しました。偶然にも Borders 本店で，Sucheng Chan "Asian Americans An Interpretive History"（Twayne Publisher, 1991）に出会いました[12]。帰国後に『アジア系アメリカ人の光と陰 ― アジア系アメリカ人移民の歴史』（大学教育出版, 2010 年）を翻訳出版しました[13]。留学中にハーバード大学の書店で出会った医療現場の Robert A.Bolder “Managed Care Made Simple”, 2nd Edition, Blakwell Science, 1998 の英文著書[14] を,『マネジドケアとは何か―社会保障における市場原理の開放と統制』（ミネルヴァ書房，2004 年）と監訳しました[15]。

9　日本介護保険制度の誕生から展開

日本の介護という言葉は，世界共通ではなく，日本の介護は，医療からも独立，保健からも独立，福祉からも独立，単独に独立した介護の概念であります。例えば，ドイツ介護保険，韓国介護保険しても，アメリカのナーシングホームにしても，結局は老人長期療養であり，長期医療の一部に過ぎない。その他の国は，家族の世話の一部に含まれたままでした。日本で初めて誕生した介護の言葉は，あの素晴しい介護が独立宣言しました。一般にも介護を広めるために『介護保険入門書－介護保障を支援するために（インデックス出版 , 2002 年）』を刊行しました[16]。

日本に介護保険制度が 2000 年度から開始されました。日本と同様に，超少子高齢化で非常に厳しい状態に陥った韓国に，日本の介護保険入門書を韓国語に翻訳して,『고령 사회에 대응한　일본의 인복지정（介護保険入門書）（學現社 , ソウル , 2006 年 6 月）』を出版しました[17]。

さらに，日本と同様に超少子高齢社会の中国に,『日本介护保险（日本介護保険）中国労働社会保障出版社 , 北京 , 2009 年 8 月』を翻訳出版しました[18]。中国社会にも，介護という用語はありません。介護は家族の世話であり，一般的な世話である護理という言葉しかない。中国社会に，介護という用語を手元に届けるために，中国民生部の出版社である中国労働社会保障出版社から出版しました。

10　世界に日本介護保険制度と国際介護保険用語辞典を届けて

日本から国際的に介護を発信して，あの素晴しい介護を手元に届けてもらいたく,『国際介護保険用語辞典－介護保険の国際化－（大学教育出版 , 2012 年）』を科研費で大学教育出版から刊行しました[19]。13 カ国語に介護保険用語を翻訳しました。日本の介護の

文化を受け止めていただければ，世界中に介護を必要としている人に介護が届くことを念願しました。日本介護保険制度の英語版として『Achievements and Future Diretions of the Long-Term Care Insurance System in Japan; Toward Social "Kaigo" Security in the Global Longevity Society (University Education Press, 2014)』を約 10 年かけて刊行しました [20]。

世界に向けて介護の用語を，英語で翻訳して届けて理解していただけば，介護というものが世界中の手元に届くことを祈念しました。国際英語なら約 3 年間で翻訳できると思っていました。しかし，英語の本を出版するにも，英語には介護の専門用語が全くないので，ゼロから英語翻訳をスタートしました。国際英語版を出版するまでに，約 10 年もかかりました（図 4）。

図 4　日本介護保険入門書を韓国語・中国語・英語に翻訳して国際出版して日本介護保険制度を国際学術発信

11　介護モデルの理論と実践から介護サービスの標準化と専門性

私の専門性としては，『介護モデルの理論と実践（大学教育出版 , 1998 年』にて，介護モデルを提唱しました [21]。医学モデルの場合は，診断して治療の過程です。介護モデルは，要介護認定をしてケアプランをする過程のモデルです。何の目標のために介護モデルが必要なのか。医学モデルは生命の延長（LOL: Length of Life1）のためです。介護は，生命の延長を求めているのではなく，各自の尊厳のある生活（ROL: Respect of Livong）を護り，介（たす）けてもらいたい。介護モデルで尊厳のある生活を提唱しました（図 5）。単著『介護モデルの理論と実践（大学教育出版 , 1998 年）』を科研費の研究成果公開促進費で大学教育出版から刊行しました [22]。

2005 年介護保険法改正にて，「尊厳の保持」の目的に追記されました。あの素晴しい尊厳が目標となりました。2005 年に県立広島大学の大学院が開学して，「介護福祉学」で文部科学省教員組織資格審査認定（マル合格）と審査されました。経営学の起点である科学的管理法により時間研究と動作研究により，介護保険における介護サービスの標準化と専門性を探求しました。『介護保険における介護サービスの標準化と専門性（大学教育出版，2007 年）』を科研費の研究成果公開促進費で刊行しました [23]。

図 5　介護福祉学を介護モデルから介護サービスを，県立広島大学大学院で探求

12　日本学術会議に連携会員として参加と活動

私の介護モデルの理論と実践により，内閣府日本学術会議に連携会員に 2005 年から推挙されました。厚生労働省は，2015 年 1 月 27 日に「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」（新オレンジプラン）を策定しました。その具体的な施策として認知症の予防法，診断法，治療法，リハビリテーションモデル，介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進が提唱されました。2021 年 12 月から，日本学術会議第 25 期高齢者の健康分科会・委員長に拝命を受けて，2 回の公開シンポジウムを開催しました。

21 世紀は医療から介護へ，介護から医療へ，日本の社会保障制度は，両者による社会保険制度の経済財政上で運営される。社会保障制度は，その社会保険制度上で成り立ち，それらを最善に活用するために，住居広士編著『医療介護とは何かー医療と介護の共同保険時代ー』を 2004 年 6 月に金原出版から刊行しました。医療と介護の連携と協働に向けて，「医療介護」の概念を初めて刊行して提唱した [23]。

13　あの素晴しい愛をもう一度の思い出

「あの素晴しい愛をもう一度」の楽曲は，戦後の戦

争を知らない世代が，初めて戦後を脱却して出現したフォークソンググループであるザ・フォーク・クルセダーズが作詞作曲しました。京都府立医科大学医学生であった北山修が作詞して，九州大学教授，白鴎大学学長になっておられます。

私なりに「あの素晴しい愛をもう一度」を解釈をします。人間は常に時と共に変化をします。いつのまにか終わりが訪れる。だからこそ，そこに人生の素晴しさと生きがいを感じれるのです。私も小さい頃は，両親が 1954 年から経営していたダンスホールで，歌とダンスと共に生活していました。三原市役所近くのあけぼのダンスホールで，色々なレコード盤を針でかけながら，歌と人生を共に生きていました。

やがてフォークソングが出現した 1970 年代に，時代の流れと共に，ダンスホールは 1973 年に閉店に追い込まれました。すべてが時代と共に変化していきます。変化することは必然であり，大切なことであり，恐れることはなく，変われるチャンスなのです。変化することで，あの素晴しい県立広島大学がもう一度よみがえるのです。

14　小さなやさしい想い出を作ってくれてありがとう

電動タイプライターによって，『詩集　雪の花びら』の妙見幸子さんの詩集が，彼女が新生児期に脳性麻痺を発症して，自らの言葉が途絶えていた世界から開花しました。身の回りの世界はいたるところに障害だらけでも，心だけは自由に羽ばたいていたのです。その心との交流が，詩集により夢や現実の世界に我々を連れて行ってくれます。妙見幸子著『詩集　雪の花びら－電動タイプライプでうたう－新訂版』（大学教育出版，2008 年 6 月）に刊行しました [24]。

雪の花びらのような桜は日本の国花であり，光は太陽を，陰は月を，光陰矢の如し，時の流転を示してくれます。春になれば桜は満開になって，新しい年を迎えます。毎年 3 月末に桜は満開になって，新しい年度を迎えます。タンポポは，瀬戸内海を象徴する花です。春になると綿毛ができて，風に舞いながら，空からの光を反射して，タンポポの白色の綿が，印象的な瀬戸内海を映してくれます。イラストは頸髄損傷を 1997 年に負傷した久留井真理さんが描いてくれました。

15　諦めるな，光に向かって這っていけ

私なりに，あの素晴しい県立広島大学は何かということを，もう一度総括します。桜の吹雪の舞う姿で，光陰，太陽と月との回転によって，時代の流れを感じます。介護は，原始には家族の中では光でありました。だんだんだんだんと，月の陰に追い込まれた時代もありました。やがて介護保険制度によって，光として輝く時代を迎えたのです。

ノーベル平和賞を 2017 年に受賞した ICAN (The International Campaign to Abolish Nuclear Weapons) という核兵器廃絶国際キャンペーンの授賞式にて，広島出身のサーロー節子が述べた一言を皆さんに届けたいと思います（サーロー節子著『光に向かって這っていけ－核なき世界を追い求めて（岩波書店，2019 年）』）[25]。Don't give up!（諦めるな）。広島原子爆弾で倒壊した家屋の下で，真っ黒の中に取り残されたサーロー節子は，周りから火がいっぱい出て炎上していました。側を通りがかった人が，「諦めるな」と言われました。Crawl towards the light（その光に向かって這っていけ）と言われ助かりました，暗いから光が見えのです。暗いから恐れて諦める必要はないのです。光が見えるから，光が見えるのではないのです（図 6）。ICAN らによって，2020 年に国連の核兵器核廃止条約が 50 カ国で締結されました。

しかし，2022 年 2 月 24 日にロシア・ウクライナ戦争が勃発して，広島県として，将来の地球平和が残されました。ヒマワリは，生命力を種に蓄え保持してくれる花々です。残念ながら，2022 年 2 月 24 日にロシア・ウクライナ戦争が勃発して，悲劇のロシアとウクライナの国花なのです。非常に貧しかった地域で，ヒマワリの生命の種により戦争と平和にも耐え続けてきた国々なのです。

図 6　県立広島大学の光陰・空色・生命から
『光に向かって這っていけ－核なき世界を追い求めて
（サーロー節子，岩波書店，2019 年 7 月 [25]）』
（イラストは久留井真理『花の日々』より。）

16　結語

2022 年度から県立広島大学三原キャンパスに大学院に新たに保健福祉学専攻博士後期課程が開学しました。あの素晴しい県立広島大学三原キャンパスに大学

院最高学歴が誕生しました。最初の開学は，1995 年度に広島県立保健福祉短期大学から始まって，2000 年に広島県立保健福祉大学になり，2005 年に県立広島大学大学院修士課程ができました。その後には，ユニバーシティという総合大学の一員に入れないジレンマがにありました。2022 年度から，あの素晴しい県立広島大学保健福祉学専攻博士後期課程が三原キャンパスにできました。

もう一度素晴しい県立広島大学を,「教育基本法（第七条）大学は，学術の中心として，高い教養と専門的能力を培うとともに，深く真理を探究して新たな知見を創造し，これらの成果を広く社会に提供することにより，社会の発展に寄与するものとする。大学については，自主，自律性その他の大学における教育および研究の特性が尊重されなければならない。」県立広島大学三原キャンパスを学術の中心として，あの素晴しい県立広島大学におして深く真理を探求して新たな知見を創造しましょう。

17　謝辞

県立広島大学三原キャンパス大講義室にて 2022 年 3 月 16 日に，住居広士の最終講義「あの素晴しい県立広島大学をもう一度」の一部を加筆修正しました。

18　文献

1) 住居尚子著 : 思い出の小説―もう一度読みたい最高の作品 , いっと編集室，1997 年 4 月 .
2) 新見嘉兵衛著 : 神経解剖学 , 朝倉書店 , 1978 年 6 月 .
3) 藤井克行・井上一編著 : 骨と軟骨のバイオロジー , 金原出版 , 2002 年 3 月 .
4) 岡山県介護福祉研究会 : 介護福祉研究 (ISSN 0919-2492), 第 1 巻第 1 号 , 1993 年 4 月から第 30 巻第 1 号 , 2023 年 3 月 31 日 .
5) 日本介護福祉学会 : 介護福祉学 (ISSN 1340-8178), 第 1 巻第 1 号 , 1994 年 10 月 .
6) 坪倉篤雄監修 , 住居広士編著 : 保健福祉総合研究ー 21 世紀を展望した保健福祉システムに向けてー , 第一法規出版 , 1996 年 3 月 .
7) 日本保健福祉学会編集 : 保健福祉学 : 当事者主体のシステム科学の構築と実践 , 北大路書房 , 2015 年 3 月 .
8) 住居広士編著 : リハビリテーション介護とは何か , 一橋出版 , 1997 年 2 月 .
9) 住居広士編著 : 理論と実践 リハビリテーション介護 , 一橋出版 , 1997 年 2 月 .
10) 住居広士編著 : 見てわかるリハビリテーション介護技術 , 一橋出版 , 2001 年 4 月 .
11) 住居広士編訳 : アメリカ社会保障の光と陰―マネジドケアから介護まで , 大学教育出版 , 2000 年 1 月 .
12) Sucheng Chan : "Asian Americans An Interpretive History", Twayne Publisher, January, 1991.
13) 住居広士翻訳 : アジア系アメリカ人の光と陰 ーアジア系アメリカ人移民の歴史 , 大学教育出版 , 2010 年 9 月 .
14) Robert A.bolder : Managed Care Made Simple, 2nd Edition, Blakwell Science, March, 1998.
15) 住居広士監訳 : マネジドケアとは何かー社会保障における市場原理の開放と統制 , ミネルヴァ書房 , 2004 年 10 月 .
16) 住居広士編著 : 介護保険入門書ー介護保障を支援するために , インデックス出版 , 2002 年 8 月 .
17) 住居広士編著 : 고령 사회에 대응한　일본의 인복지정（介護保険入門書）, 學現社 , ソウル , 2006 年 6 月 .
18) 住居広士編著 : 日本介护保险（日本介護保険）, 中国労働社会保障出版社 , 北京 , 2009 年 8 月 .
19) 住居広士編著 : 国際介護保険用語辞典ー介護保険の国際化ー , 大学教育出版 , 2012 年 2 月 .
20) Hiroshi Sumii, Yuki Sawada: ”Achievements and Future Diretions of the Long-Term Care Insurance System in Japan; Toward Social "Kaigo" Security in the Global Longevity Society”, University Education Press, Feb, 2014.
21) 住居広士著 : 介護モデルの理論と実践ー介護保険総合研究ー , 大学教育出版 , 1998 年 2 月 .
22) 住居広士著 : 介護保険における介護サービスの標準化と専門性 , 大学教育出版 , 2007 年 2 月 .
23) 住居広士編著 : 医療介護とは何かー医療と介護の共同保険時代ー , 金原出版 , 2004 年 6 月 .
24) 妙見幸子著 : 詩集　雪の花びらー電動タイプライターでうたうー新訂版 , 大学教育出版 , 2008 年 6 月 .
25) 久留井真理：花の日々 , 1996.
26) サーロー節子 : 光に向かって這っていけー核なき世界を追い求めて , 岩波書店 , 2019 年 7 月 .

For the Prefectural University of Hiroshima to be a cherished institution, we will rediscover our mission of promoting a health and welfare model.

Hiroshi SUMII

Reserch Professor, PhD, MD, CSW, CCW, Prefectural University of Hiroshima, Mihara Campus

Abstract

As I recall about my career at the esteemed Prefectural University of Hiroshima, I reflect on my journey through university education and research. Inspired by my mother, Hisako Sumii, who suffered from the aftermath of exposure to the atomic bomb. I pursued a career in medicine and engaged in clinical practice and basic research as an orthopedic surgeon. However, around age 30, I transitioned from the field of clinical medicine and basic research to the field of elderly care and welfare. This shift marked a significant turning point in my life. In 1995, I was appointed to the Hiroshima Prefectural College of Health and Welfare in my hometown of Mihara City. In 2000, I was appointed to a professorship at the Faculty of Health and Welfare at the Prefectural University of Hiroshima, where I remained until my retirement in 2022.

In the absence of dedicated kaigo worldwide for the study of elderly care and welfare, I established my own study groups and academic societies to research these subjects. The launch of the long-term care insurance system in 2000, which brought recognition to elderly care and welfare has become a milestone in the field. I advocated the Kaigo Model for long-term care and explored the standardization and specialization of long-term care services. In 2005, I was nominated as an affiliate member of the Science Council of Japan and served as the chairman of the 25th Subcommittee on the Health of the Elderly, further promoting elderly care and welfare studies.

The outstanding Prefectural University of Hiroshima has played a central role in research and education in health and welfare studies and contributed to the development of health and welfare in Hiroshima Prefecture, which in 1992 became the first Japanese prefecture with an integrated health and welfare model. Recognizing my dedication, my group at Prefectural University of Hiroshima directed me toward research and education in the field of elderly care and welfare studies. Shifting from the Medical Model to the Kaigo Model, I advocated a care model that promotes respect of living (ROL) for elderly individuals in need of care and explores standardization and professionalism in long-term care services. My passion for research and education in the field of elderly care and welfare studies will be a source of guidance in the 2040s, a time when the share of elderly persons is expected to reach its highest level in human history.

Key words: Prefectural University of Hiroshima, Health and Welfare, Care and Welfare, Clinical Medicine, Basic Medicine, Long-Term Care Model